

[平成17年度 普及に移す技術]

[普及に移す技術名]

小球開花性の高いユリ品種「95-64」、「94-17」、「97-4」

[要約] 多花性で、小球開花性が高く、花色の異なるユリ種間雑種「95-64」、「94-17」、「97-4」を胚培養により育成した。花色は淡い桃色、鮮明な黄色、濃い赤色である。3品種とも草丈の伸びが良好で、栽培が容易である。

[キーワード] ユリ、種間雑種、多花性、小球開花性、胚培養

[担当] 福井園試・野菜花き研究グループ

[連絡先] 電話 0770-32-0009 電子メール enshi@ain.pref.fukui.lg.jp

[分類] 普及

[背景・ねらい]

福井県内で栽培されるユリの多くはシンテッポウユリであり、花色が白色に偏っているため、市場と生産者から多彩な花色のユリ切り花生産が望まれている。花色の多彩なスカシユリは、シンテッポウユリに比べて球根養成期間が長いいため、栽培は少ない。このため、シンテッポウユリにスカシユリを交配し、胚培養により得られた種間交雑系統から球根養成期間が短く、花色と花姿が優れた個体を選抜した。

[技術の内容・特徴]

1. 1994～1997年に交配し、胚培養で作出した種間交雑系統から花色の異なる3品種を選抜した。いずれの品種も多花性で、草丈の伸びが良く、茎が強く、小球開花性が高い。
2. 「95-64」は1995年に「ひのもと新鉄砲」と「サンシロ」を交配した種間交雑種で、花色は淡桃色の大輪である(表1、図1)。
生育が旺盛であり、栽培条件が良好であると花数が極めて多くなる(表1)。
小球開花性が極めて高く、無菌増殖で得られた5mm程度の小球が1年で開花する(表2)。
3. 「94-17」は1994年に「北岳2号」と「イエローサブマリン」を交配した種間交雑種であり、花色は黄色の中小輪である(表1、図1)。
小球開花性が高く、無菌増殖で得られた5mm程度の小球が1年で開花する(表2)。
4. 「97-4」は1997年に「91-49」(北岳2号×レッドルビー)に「コリナ」を交配した種間雑種で、花色は濃赤色、花弁に斑点がある中輪であり、草丈が高い(表1、図1)。

[技術の活用面・留意点]

1. 各品種とも茎は強く、スカシユリのように茎を堅くするために灌水を控える必要はない。灌水量が不足すると、根張りが悪くなるため、ボリュームが不足する。
2. 葉枯病耐病性は、「若狭の歌姫」と同等の中程度であり、予防的に防除する。

[具体的データ]

表 1 品種の開花特性

系統名	年次	定植期	開花期	花弁の地色	花弁中心の色	花弁斑点の有無	輪数(輪)	花径(cm)	草丈(cm)	備考
95-64	平成12年	11月30日	5月26日				5.1	18.3	132.2	平成12,13年はボックス栽培(ガラス温室)
	平成13年	12月7日	5月24日	淡桃(1R0102)	桃白(1R0101)	無	6.7	16.3	85.5	
	平成16年	11月26日	6月14日				10.2	19.7	120.8	
94-17	平成12年	11月30日	6月3日				6.1	12.5	117.6	平成16年は地床栽培(ビニールハウス)
	平成13年	12月7日	5月26日	黄(5Y2504)	地色と同じ	無	4.0	12.5	105.0	
	平成16年	11月26日	6月14日				6.6	11.7	106.0	
97-4	平成12年	11月30日	5月5日				6.2	15.0	145.4	
	平成13年	12月7日	4月28日	濃赤(4R0408)	地色と同じ	有	6.8	12.0	121.9	
	平成16年	11月26日	5月26日				8.6	13.8	122.4	

定植期は、年次の前年。球の大きさは、「95-64」(平成16年)50~60g、「94-7」30~40g、他は40~50g
 花弁の色は、日本園芸植物標準色票による

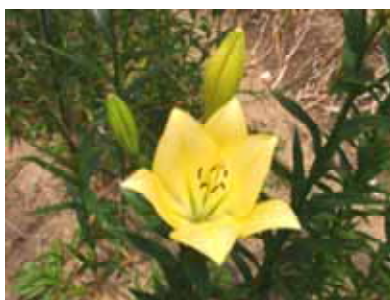
表 2 無菌増殖小球の開花特性

系統名	耕種概要		開花期	輪数(輪)	花径(cm)	草丈(cm)
	小球の冷蔵開始	プラグトレ移植時期				
95-64	4月18日	10月11日	5月20日	6.4	17.5	99.2
94-17	4月18日	10月7日	6月23日	4.7	17.8	89.3
	7月30日	10月1日	6月23日	3.3	17.6	89.0

定植時期：平成15年12月1日 栽培場所：無加温ビニールハウス
 球の大きさは球径5mm



95-64



94-17



97-4

図 1 各品種の花姿

[その他]

発表論文等：2004年嶺南地域農業試験研究成果発表会資料